

Y09a

光・赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施

大朝由美子(埼玉大学)、高橋隼(兵庫県立大学)、黒田大介(国立天文台)、秋田谷洋(広島大学)、面高俊宏(鹿児島大学)、斉藤嘉彦(東京工業大学)、永山貴宏(名古屋大学)、野上大作(京都大学)、諸隈智貴(東京大学)、渡辺誠(北海道大学)、関口和寛、林正彦(国立天文台)

「大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築」事業は、大学と国立天文台が国内外に持つ中小の望遠鏡を有機的に結びつけ、大望遠鏡では達成困難な時間軸などの最先端研究を共同で行い、大学での教育と研究を促進することを目指している。現在、北海道大学、埼玉大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、兵庫県立大学、広島大学、鹿児島大学の9大学と大学共同利用機関である国立天文台が参画している。我々は、光・赤外線天文学分野における大学の教育研究基盤の強化、連携による特色ある天文学研究の創出と幅広い人的交流の活性化を図るべく、平成25年度から光・赤外線天文学大学間連携に所属する大学院生や若手研究者を対象とした短期滞在実習プログラムを始めた。

本プログラムでは、それぞれの研究活動の発展やスキルアップを目的として、自身の所属する大学・研究機関以外に一週間ほど滞在し、波長/手法の異なる望遠鏡/観測装置を利用した観測や、観測装置や観測システムの基本的な開発についての実践的な実習を実施している。初年度である平成25年度は修士課程/博士課程の大学院生5人が本実習プログラムに参加した。本講演では実習プログラムの取り組みを紹介し、その進捗状況や次年度以降の計画を報告する。